



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：原油価格が20ドルになっても減産しないと石油相が発言

ヌアイミー石油相は、『ミドル・イースト・エコノミック・サーベイ (MEES)』のインタビューにおいて、原油価格が20ドル/バレルになってもOPECは減産することはないと述べた。各種報道によるヌアイミー石油相の発言概要以下のとおり。

- ・原油価格がいくらであっても、減産することはOPECの利益にならない。それが1バレル20ドル、40ドル、50ドル、60ドルに下がっても、(減産の見直しに)関係ない。
- ・生産効率の低い生産者が石油生産を継続しているなか、生産効率の高い生産者が減産をすることは合理的だろうか。
- ・もし我々が減産したら、我々の市場のシェアに何が起きるか。原油価格は上がり、ロシア、ブラジル、米国といったシェールオイルの生産者が我々の市場をとるだろう。
- ・我々(OPEC)は現在、世界の石油生産のうち40%以下しか占めていない。OPECだけが減産するのは不公平である。
- ・OPECは、OPEC非加盟国との間で共同戦線を張って、市場の安定を模索しようとしてきたが、それはできなかった。
- ・今年初頭に見られた1バレル100ドル以上という水準には、再び戻ることはないだろう。
- ・しかし、原油価格はいずれ上昇するだろう。タイミングについて知ることは難しいが、既にいくつかの国際石油会社は、将来の資本支出を減らした。これは、(更なる)石油探査が行われないことを意味しており、(将来的な)増産がないことを示している。

評価

本年6月から原油価格は急落を続けており、既に60ドル/バレルをも下回る見通しであるが、これに歯止めがかかる兆しは見えない。(これまでの経緯は[「サウジ・クウェイト：原油価格が急落し続けているも減産の意思なし」『中東かわら版』No.154\(2014年10月14日\)](#)、「[サウジアラビア：OPEC総会が開催されるも減産は見送り」『中東かわら版』No.192\(2014年11月28日\)](#)参照)

ヌアイミー石油相の発言は、OPECというよりサウジアラビアの立場を説明したものであるが、いずれにせよ、価格調整能力を持つサウジアラビアに減産の意思がないことを改めて強調する形となった。また、これまで各種報道などで指摘されてきた市場のシェア争いについて、石油相自らが肯定することで、シェアの低下により価格調整力が弱まるなか、OPECないしサウジにのみ減産措置が期待されていることに対する強い不満が表明された。

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799